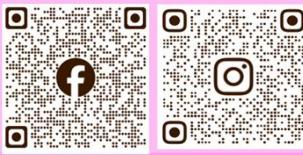




哈囉, Hong Kong!

Hello

宮崎縣香港事務所通信
2026年1月 vol.22



飲食店関係者を本県へ招へい

県産品の更なる輸出拡大につなげるため、昨年11月中旬、香港・シンガポールを中心に日本食レストランを展開する飲食チェーン兼サプライヤー企業の幹部5名を本県へ招へい。3日間の行程で農畜水産物や加工品の産地視察を行いました。

当日は、製造工程などの見学を行いながら商品のこだわりを紹介。参加者からは「生産現場を見て、商品が持つストーリーなどへの理解が深まった」といった声が聞かれ、熱心な意見交換が続きました。

さらに試食会では、実際に体験してもらうことで、商品の持つ魅力や味わいをより強く印象づけることができました。



水産加工場視察



焼酎酒蔵見学と試飲



きんかん園地で丸かじり初体験



Canon Hong Kong・宮崎県・高千穂町のコラボ

Canon Hong Kongがカメラの新商品発売にあわせ、本県、高千穂町と連携したツアー実施を発表。

「秘境への旅」と題し、カメラ購入者を対象に日本の美しい原風景の撮影をテーマにした特別ツアーを募集し、JTB香港が実施することになりました。2025年11月6日には、Canon Hong Kongが香港のメディアやカメラ業界関係者を招待した記者発表会を開催。新商品の紹介とともに、李冠徳董事長から県・町・JTBとの連携についても発表

されました。

発表会では、香港の写真家Topaz Leung氏が高千穂で事前に撮影した写真・動画がふんだんに紹介されたほか、みやざき犬のむうちゃんも天照大神の衣装で登場。高千穂町から貸し出された本物の神楽面なども展示されました。

今後、ツアーの募集・催行が行われます。本県で素敵な写真をたくさん撮影していただきたいですね。



カメラ新商品と真名井の滝のキービジュアル



高千穂での撮影について語るTopaz Leung氏(左)



写真撮影に応じるむうちゃん



中国・深圳で九州焼酎カクテル販売

2025年11月21日～23日、九州5県（長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島）の焼酎をベースにしたカクテルを販売する「Kyushu Shochu Festival」を中国・深圳市で開催。

深圳市は人口約1800万人。経済特区に指定され、革新技術や新たな産業の導入が進む、中国の中でも先進的な都市です。

今回、3軒のバーに、5県それぞれの焼酎を活用したカクテルを開発・販売いただき、たくさんのお客さんでぎわいました。

そのうちBAR CHOICEでは本県産焼酎にライムなどを使った「春日野結衣 Asian Valentine」というロマンチックなカクテルを販売。飲み口もさわやかなおしゃれな一品です。

20代～30代の女性やカップルが目立つ客層。いずれのバーも、味ももちろんですが、写真映えする華やかなカクテルを制作し、目で見ても楽しめることや、SNSでの拡散を意識したメニュー展開でした。

さまざまな蒸留酒が作られ、愛飲されている中国。2024年日本から中国への焼酎（泡盛を含む）輸出額は、約4.6億円にのぼります。一方で、アジアの他の蒸留酒とともに「焼酒（シャオジョウ）」として認識している方も多く、独特な素材の風味を放つ本格焼酎を区別して認知する方を増やしていく工夫が必要です。多くの人に、「焼酎」の魅力を伝えていきたいですね。



右側が本県産焼酎を使った「春日野結衣 Asian Valentine」



にぎわう店内



企画に参加した5県の焼酎



宮大生がやってきた

今年7月、11月と2度にわたり、宮崎大学の学生さん達が事務所に来られました。

11月末は、地域資源創成学部の国際経営ゼミ生が来所。学部の紹介をしていただいた後、香港の情勢や香港事務所の活動内容について紹介。

香港の日常生活やビジネスが多言語で行われる状況や、中国政府による日本への渡航自粛の呼びかけの影響など、熱心に耳を傾けていただきました。

参加者の中には、香港の大学生が宮崎大学で学生交流が行われた際（当事務所も協力）の参加者も。さまざまな場面を通して、香港に、海外に目を向けてもらえるのはうれしい限りです。



11月に来所した宮崎大学生一行

一行は県事務所のほか、物流会社や県産品が販売されている小売店などを視察。香港のダイナミックな市場や、その中の本県の立ち位置など、肌で感じるいい機会になったことでしょう。



日本でも大きく報じられていますが、香港では昨年11月26日に高層マンションで大きな火災があり、168人の方が犠牲になりました。被害に遭われた方々に心からお見舞いを申し上げます。

香港では「返還後最大の惨事」として受け止められ、延焼の原因とみられる防火ネットの使用を巡って逮捕者も出ています。年末だったこともあり、火災の後、クリスマス関連のイベントや会社の宴会などの中止・延期も見られたところです。

超高層ビルが林立し、オフィスや住居が狭い土地にひしめいている香港において、火災は最も警戒すべき災害と言っても過言ではありません。

台風接近の折には、日本より少し慎重側に立った警報が発令され、学校や企業の活動がストップします。最も警戒されるのは暴風と高潮のようです。一方で香港には地震がなく、「家具を固定しましょう」「1週間分の水・食糧を家庭で備蓄しましょう」といった呼びかけも聞いたことがありません。

「所変われば災害対策も変わる。」インフラなどハード面だけでなく、人々の意識面での違いも、生活してみると肌で感じることができます。

(坂)